

## ➤ 23日 水曜

### ガラテア

3:10 律法の行いによる人々はみな、のろいのもとにあります。「律法の書に書いてあるすべてのことを守り行わない者はみな、のろわれる」と書いてあるからです。

3:11 律法によって神の前に義と認められる者が、だれもないということは明らかです。「義人は信仰によって生きる」からです。

3:12 律法は、「信仰による」ではありません。「律法の掟を行う人は、その掟によって生きる」のです。

3:13 キリストは、ご自分が私たちのためのろわれた者となることで、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。「木にかけられた者はみな、のろわれている」と書いてあるからです。

3:14 それは、アブラハムへの祝福がキリスト・イエスによって異邦人に及び、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるようになるためでした。

3:15 兄弟たちよ、人間の例で説明しましょう。人間の契約でも、いったん結ばれたら、だれもそれを無効にしたり、それにつけ加えたりはしません。

3:16 約束は、アブラハムとその子孫に告げられました。神は、「子孫たちに」と言って多数を指すことなく、一人を指して「あなたの子孫に」と言っておられます。それはキリストのことです。

3:17 私の言おうとしていることは、こうです。先に神によって結ばれた契約を、その後四百三十年たってできた律法が無効にし、その約束を破棄することはありません。

3:18 相続がもし律法によるなら、もはやそれ



は約束によるものではありません。しかし、神は約束を通して、アブラハムに相続の恵みを下さったのです。

イエス様は自ら「のろわれたもの」となって、私たちの受けるべき「のろい」を身に受けてくださいました。ですからその身代わりの十字架を受け入れることで、私たちの救いはもたらされます。逆にそれを拒絶するなら、救いも拒絶されるのです。

そのことはクリスチャンなら誰でも知っていることで、自分は強い意志で律法を守って救われたという人はいないでしょう。しかし、救われた後に、自分の意志で律法的に頑張ろうとする人もいます。

「信仰によって生き」ましよう。それは律法より前、アブラハムの時代に神様から約束された祝福であり、生きた神様との交わりによるものです。毎日の神様との交わりが大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

